

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



霊丘県の南天門自然植物園でワーキングツアー参加者が記念撮影。時間がなく、急いで登った

Contents

- 運営懇談会で活発な議論を！ P 2
- 夏の思い出～ワーキングツアーグラフィティ P 4
- 未来の世代のための選択を！ P 6

2010.9

135

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

運営懇談会で活発な議論を！

大同の現地ではさまざまな問題が山積するなか、カウンターパートの大同事務所の人たちはこの局面を突破しようと懸命に努力しています。そのなかで、歓迎すべき要素も少しずつできています。

- 1) 環境林センターの代替地（仮称・白登新地）は契約が終わり、山西省林業庁のポプラ抜木の許可を待つ段階で、まもなく着工できる見通しです。どのように利用計画を立てるかは、今後の協力内容に直接かわります。苗圃に用いる以外に、生態植林見本園、有用植物見本園（薬草を含む）などの案があります。積極的な議論をお願いします。
- 2) この夏に10数人の専門家が現地を訪れました。南天門自然植物園は予想以上に伸び始めていますし、植物種もたくさんあり、スタッフによる標本づくりもすすんでいます。また昨年秋から取り組んだ菌根菌と木炭の利用実験では、予測を上回る結果がえられました。これらは日本国内

の活動にも生かすことができます。大阪会場、東京会場での議論に多くのかたの参加をお待ちしています。

【大阪会場】

- 10月2日（土）13時30分～16時30分
- 大阪市立総合生涯学習センター（大

阪駅前第2ビル5階）

【東京会場】

- 10月9日（土）15時～18時
- 立教大学池袋キャンパス5号館1階会議室（各線「池袋」駅）
（運営懇談会の前に、月例会があります）
*参加ご希望の方は、9月28日までにGEN事務所までご連絡ください。GEN会員の方ならどなたでも参加できます。新メンバーも歓迎します。

GEN 関東ブランチ月例会のご案内

毎回、土曜日の15時から18時ごろ、立教大学池袋キャンパス5号館1階会議室で月例会をおこなっています。

参加費無料、事前申込み不要です。GEN会員以外の方もご参加いただけます。月例会のあとに、懇親会をおこないます。

【9月】

9月25日（土）『夏のワーキングツアー報告』+『宇久須プロジェクト現状報告』

【10月】※13時～15時

10月9日（土）『東南アジア・熱帯多雨林チャンプルー』藤沼潤一さん（GEN

世話人・北海道大学大学院生）

マレーシア・インドネシアでのフィールドワークで見聞きしたことを中心に、熱帯多雨林の概要やおもしろ話、環境問題話を紹介したいと思います。

より多くの「へえ」を出せるように（でも事実には忠実に）、話をしたいと思います。

月例会にひきつづき、15時からGEN運営懇談会をおこないます。

【11月】

11月13日（土）『GENの活動の近況』高見邦雄（GEN事務局長）

GEN 自然と親しむ会

無煙炭化器で炭を作ってみよう 報告

個人的には炭焼きと焼き芋のどちらが目的かあやしかった自然と親しむ会の炭焼きリベンジは、7月24日、気持ちのいい快晴の日に決行されました。夏に炭焼きは暑いだろうと、雨天中止となった5月の企画とは場所を変え、木陰と流れのある豊能町の初谷溪谷に。



集めてきた枝をちょうどいい大きさに切る。小学生もノコギリに挑戦！

元気いっぱい小学生兄弟もふくめ、19人が参加しました。

少し前の豪雨で土砂崩れがあり、初谷のハイキングコースは通行止めになっていましたが、炭焼き会場に予定していた場所はその手前で問題はありません。河原に着くと早速炭の材料となる枝を探します。河原、山の斜面、枝はあちこちに転がっていてすぐに集まりました。そして無煙炭化器に入る長さに切り、炭焼き開始。炭が焼けているあいだ、火の番、追加の枝集め、水遊び、焼き芋の準備など、それぞれにすごします。タッパを用意してきた兄弟は、水辺の生き物を片っ端からつかまえてタッパに確保。デジカメで撮影してから、帰り際に放してやりまし



水と緑に囲まれて、気持ちよく炭焼き

た。カエル、ヤゴ、魚やナマズ、水棲昆虫など、いろいろいるんですね。そうこうする間に焼き上がった芋はふっくらと甘く、おいしくいただきました。

炭もちろん、参加者で分けて持ち帰りました。家庭菜園にいれるといい結果がでそうです。

炭焼き終了後、軽ハイキングを予定していましたが、あまりの暑さにそちらは中止。楽しい1日を終え、また冬にやりたいねと話しながら家路につきました。（東川）

いまあぐできる GEN への協力

■新拠点建設にご協力ください

環境林センターの代替地である新拠点（仮称・白登新地）は、今年度中に建設にとりかかることになっています。抜木・整地、管理棟、井戸などの建設のために400万円を目標としています。会報の先号で寄付をよびかけ、これまでに83人／団体から1,029,670円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。まだ目標にとどきませんので、継続して寄付を募集します。ご協力をよろしくお願いいたします。

■会員になってください！

まだ会員になっていない方、ぜひ会員になって GEN の活動をささえてください。また、環境問題や国際協力に関心をお持ちの知り合いに、会報の購読などをおすすめてください。会費は4～5ページの下部をご参照ください。なお、GEN 年会費には会報購読料がふくまれています。

■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料2,000円。

■みみずく基金にご協力ください！

緑色地球ネットワーク事務所直轄プロジェクトの運営を支えるために、1口1万円で寄付を募っています。A. 新拠点、B. 霊丘自然植物園、C. 白登苗圃、D. かけはしの森、E. カササギの森の5つからお選びください。指定のない場合は、事務局で決めさせていただきます。

■緑化基金、運営カンパもとむ

金額はいくらでもけっこうです。GEN への寄付は、税制上の優遇措置の対象となります。みなさんの応援をお願いします。

*みみずく基金、緑化基金、新拠点建設寄付の20%は事務管理費になります。

■絵はがき『黄土高原の花』ご利用ください

黄土高原の色あざやかな花ばなを絵はがきにしました。Eメールでは味気ない、あたたかいメッセージを送りたい、そんなときにぜひご利用ください。



絵はがき『黄土高原の花』8枚組・300円（送料別途。5セット以上送料サービス）

絵はがき『中国・黄土高原』撮影：橋本紘二 春／夏／秋・冬／緑化 各8枚組・300円（送料別途。5セット以上送料サービス）継続販売中です。

■ビデオ『よみがえる森』ご購入を！

沙漠化、水不足など黄土高原の環境問題と GEN の緑化協力を30分にまとめました。価格は5,000円、GEN 会員価格は4,000円（送料別途）です。教材にも好適。小学校高学年から。



■古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。未使用切手も大歓迎です。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを回収しています。通信費にあてています。

■外国コイン・商品券などを集めています

使うあてのない図書券、文具券、各種商品券、外国コインがありましたらお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN 事務所から連絡します。

* * * * *

【GEN は認定 NPO 法人です】

2005年6月から国税庁から認定 NPO 法人の認定を受け、09年6月から第3期目の認定が決まりました。今回の認定期間は5年間です。

GEN への寄附金は寄付金控除の対象となります。個人の場合は「寄付金額 - 2,000円」を所得金額から控除することができます。法人の場合は損金に算入することができます。相続・遺贈による寄附は相続税の課税対象から除かれます。

GEN の場合寄附金となるのは、緑化基金・運営カンパ・みみずく基金と、会費のうち1口を超える部分・賛助会費から12,000円をひいた金額です。新拠点建設寄付も対象になります。くわしくはお問い合わせください。



夏の思い出

ワーキングツアー・グラフィティ

2年振りの黄土高原夏のワーキングツアー。8月21日～27日、28人の参加で実施しました。日本でもニュースになったほどの渋滞の影響でスケジュールが変更になり、村での交流や植樹作業が減ってしまったのは残念でしたが、過ごしやすい黄土高原の晩夏を堪能しました。恒例の日誌の紹介は次号にまわして、今回は写真で旅のようすをご覧ください。



渋滞には悩まされた。長距離輸送のトラック、自家用車も増えている。

動かないバスを降りて身体を伸ばし、一服。付近の村人がカップ麺やひまわりの種、お菓子などを売りにくる。

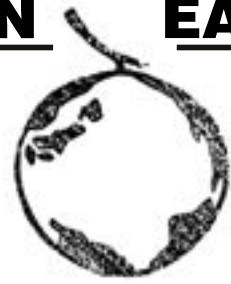


左) 霊丘の南天門自然植物園は日本の山といわれてもわからないほど緑が濃くなった。10年前の姿からは想像もつかない。

上) 予定変更で訪れた霊丘県の空中草原で乗馬を楽しむ。ワレモコウなど、秋の花がたくさん咲いていた。

下) 雨の時は川、乾いているときは道路。“流れ”を渡るために石をつみ、慎重に進むバスを見まもる。





今回は渋滞による予定変更で、村での植樹や小学校での交流ができなかった。唯一、呉城村の農家で昼食をごちそうになる。今年には春には雨が多かったが、初夏から夏にかけて厳しい早魘で、農作物の成りはよくない。トウモロコシがアワと同じ高さしかない(下右)。桑干河はすっかり畑となり、ヒマワリがきれいに咲いていた(下左)。



カササギの森ではマツを植樹(左)、かけはしの森ではよく育ったアズキのあいだで除草と灌漑の溝づくりをおこなった。作業はちょっと物足りなくて、残念だった。



白登苗圃で無煙炭化器による炭焼きをおこなった。イモとトウモロコシをいっしょに焼いたが、残念ながらトウモロコシは炭になってしまった。焼き芋はおいしくいただきました。



炭の方は、堆肥とあわせて畑にいれると好成績をおさめることがわかった。さらに実験を重ねていきたい。

未来の世代のための選択を！

小倉 亜紗美（広島大学国際センター研究員・GEN 会員）

「地域活動を続けながら、専門家としてやっていける博士を育てられるか？」というのが、私の指導教官の実験テーマであり、私の大学院生活でした。私は現在、エコライフクリエイター（環境に優しい生活スタイルを広めていく人。造語です）と名乗り、地球温暖化や生物多様性、水質汚濁、フェアトレードなどに関する講演や講座などをおこなっています。そもそも私は10年前、和歌山工業高等専門学校で機械工学を学ぶ学生でした。そこで今は亡き岡元司先生に誘っていただき、環境福祉ボ

ランティアサークル amoeba の代表世話人をさせていただくうちに、もっと自然環境の事を学んで、人に伝えられるようになりたいと思うようになりました。そこで、広島大学に編入学をし、自然環境の勉強を続けながら、自然観察会の開催、「黒瀬川流域ガイドブック」の出版、広島県内の大学生の環境サークルのネットワークづくり、東広島市の環境審議会の委員などをするなかで、大学だけではなく地域全てを自分の学びの場としてきました。これらを通して私が感じた若者の環境問題に対する

捉え方について紹介したいと思います。

私は去年、お寺で開催された上関原発（山口県上関町で建設中の原子力発電所。原爆ドームから約70kmの距離にある）のことを考えるイベントで地球温暖化とエネルギーの話をしました。そこに集まった20～30代の子育て中の人たちは「子どもたちに安全な未来を残したいから、原

発を増やさない道を考えてい」という人が多く、これ



までの「原発反対！」という運動は自分たちのやりたいこととは違うし怖いから中に入れられないという意識をもっています。自然環境を守りたいという思いが強くても、相手を敵にし論破してしまうと話し合う場を失い、実は解決から最も遠ざかってしまうように思います。正義感が強ければ強いほどそうなります。

かつて公害問題といわれていた時代は、加害者と被害者が明らかで、わかりやすい構造でしたが、今は公害から環境問題に移り、みんなが加害者でもあり被害者でもある複雑な状況になりました。これからの環境問題は、地球温暖化（水問題も含む）と生物多様性が大きな柱となりますが、これらの解決には私たちが半世紀かけて作りあげてきた化石燃料を使用し、生物資源を浪費するライフスタイルから、自然エネルギーを使用し、自然環境と共存する持続可能なライフスタイルに、また半世紀かけて変えていく必要があるのではないのでしょうか。

◆小倉さんのHP <http://asaminnhakappa.web.fc2.com/index.html>



子どもたちは太陽エネルギーに興味津々

緑の地球ネットワーク報告会ご案内 大同における緑化協力最前線（仮）

苗木代の提供からはじまった大同での GEN の緑化協力は、18年のあいだに驚くほどその幅をひろげました。植え方の改善、混植の推進、菌根菌の導入、樹種の多様化、自然植生の観察、さらに炭の活用など、「どんなことをしてるんですか」と尋ねられても簡単に説明するのがむずかしいぐらいです。

最近では中国国内でも熱心かつ大規模に緑化がおこなわれて、GEN のささやかな協力は規模においては埋没してし

まいそうです。そんななかで、GEN の活動はその質に意義を求めています。ただ植えるだけではなく、多様性のある森林の再生をめざして、いろいろな新しい挑戦をつづけています。

そんな GEN の活動の最前線を、ワーキングツアーや専門家派遣で何度も大同を訪ねておられる GEN の顧問お二人に報告していただきます。

●日時：11月29日（月）18時30分～20時30分

- 場所：大阪市立総合生涯学習センター（大阪駅前第2ビル）
- 参加費：700円
- 講師：小川真さん（白砂青松再生の会会長）、前中久行さん（元大阪府立大学大学院教授）
- 問合せ：GEN 事務所まで



黄土高原史話〈51〉

興安嶺からやって来た

大同（平城）が最も栄えたのは、北魏（386～534）がここを首都とした約100年間のこと。

しかし、北魏大同は一日にして成らず。退屈でしょうが、今回はその前史ということ。

そもそも北魏とは、いわゆる五胡のうち鮮卑の拓跋部が建てた王朝ですが、鮮卑の原郷はモンゴル高原の東を限る大興安嶺の北部。1980年、内モンゴル自治区オロチン族自治州の或る洞窟遺跡の調査で確認されました。興安嶺は古く大鮮卑山と呼ばれていたところから、その名が出たという。モンゴル系ともトルコ系ともいわれるが、いま人種上の立証ができるわけがなし、言語上でもモンゴル語が明確化されるモンゴル時代以前、両語間にはっきり線は引けないとか。いずれにせよ、森林～草原を原住地とする狩猟・牧畜の民で、この点、大草原を騎馬遊牧していた匈奴とは、生産・生活の形態が違う。

前漢の初めごろまで匈奴のイジメを受けていたが、後漢初期、匈奴が南・北に分かれた間隙をつき勢力を伸ばす。2世紀中ごろ、檀石槐という英雄が現れて、鮮卑諸部を統合し、匈奴全盛期の故地を手に入れる。177年、後漢は破鮮卑中郎将田晏らに下命して、雁門を出て鮮卑の討伐に向かわせるが、あえな

谷口 義介（摂南大学教授）

く大敗、帰還の兵馬は10に1と。

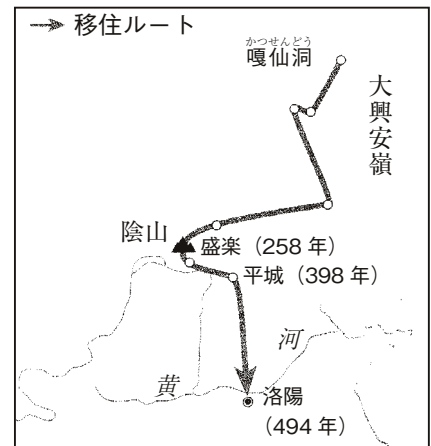
檀石槐の死後、鮮卑の諸部は離反してその勢力を減ずるが、三国のころ、軻比能が現れて、長城一帯で存分の活躍。しかしこの英傑は魏（曹操の建てた魏）の暗殺者の手にかかり、鮮卑はまたも分散・弱体化。

晋が衰退に向かう3世紀後半、鮮卑諸族は南下を開始。そのなかで東方の慕容部と西方の拓跋部が有力で、前者は早く河北に進出、前燕・後燕を樹立した。

一方、拓跋部は多年にわたる移動ののち、長城地帯にやって来る。3世紀中ごろ、力微という優れたリーダーが現れて、盛楽の地に移り、数万家をもつ部族連合国家を形成する。盛楽は今の内モンゴル自治区ホリンゴール県、漢代の定襄郡成楽県に当たります。

力微の後は末子禄官が継ぎますが、そのさい領地を分けて東・中・西の三部とし、自身は東部を抑えたうえ、兄の長男を中部に、兄の次男猗盧を西部に置いて盛楽に住ませた。東部の中心はおそらく漢以来の平城で、禄官はここを盛楽より重視したのでしょうか。

ところが、禄官などがあいついで没すると、猗盧が三部を統一し、盛楽を北都、平城を南都に定めたうえ、後者についてはその南100里に新平城を築



拓跋鮮卑の移住ルート

かせた。315年、猗盧は晋より代王に封じられたが、翌年、南都をまもる長男六脩との争いで戦死。これ以後二十余年の間、血で血を洗う骨肉の争い、盛楽の北部派と平城の南部派が対立し、拓跋部は分裂状態に陥ります。

338年、猗盧の弟の孫・什翼犍が王位につくや、代の国制を改めて、その政治も安定に向かう。また盛楽を正式に国都とし、漢の成楽故城の南8里に盛楽新城を築きます。1960年の発掘で、東西1550×南北2250メートルの輪郭が明らかに。

386年、その孫の拓跋珪が代王となり、同年、国号を魏に改める。ちなみに後世、これを北魏（後魏）と呼ぶのは、三国の魏（曹魏）と区別するためだ。

398年、拓跋珪は都を平城に遷し、帝位につく。これがいわゆる北魏の初代・太祖道武帝。

『緑の地球』 電子データ化にむけてのお知らせ

今年の会員総会へのおたよりでご提案いただいた会報の電子データでの配布を近々開始したいと思えます。具体的には、GEN会員・会報購読者で希望する方には、紙媒体の郵送をやめて、PDFファイルのデータをEメールに添付して送ることにします。

電子データは、PC画面で見るとのもので、印刷するには解像度が不十分です。紙に印刷したものを読みたい方

にはおすすめしません。印刷物がたまって困る、電子データで気軽に見たい、など、PDFファイルでの送付をご希望の方は、GEN事務所までお名前と送付先アドレスを明記してEメールでご連絡ください。





もったいないばあさんと
考えよう世界のこと

—子どもたちに伝えたい生物多様性—

生物多様性の恵みにささえられている私たちの暮らしについて、親子で考えてみませんか。

●日時：9月23日（木・祝）13時30分～15時30分

●場所：毎日新聞ビルオーバルホール（大阪市北区梅田3-4-5 JR「大阪」駅徒歩8分）

●参加費：無料

●参加対象：小学生以上

●主催：近畿地方環境事務所

●問合せ・申込み：運営事務局（セレスポ内 tel. 06-6682-8711 fax. 06-6682-8712 e-mail : ikimono@cerespo.co.jp）

*来場者多数の場合事前申込者優先

【講演】

「もったいないばあさんと考えよう世界のこと—生きものがきえる—」

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

真珠まりこさん（絵本「もったいないばあさん」作者）

【ワークショップ】

「想いでつなごう！ COPI0 おりがみプロジェクト」

【併設パネル展】

「もったいないばあさんのワールドレポート展—生きものがきえる—」

持続可能な社会とは？

国民総幸福をめざすブータンの国づくり・まちづくり調査報告会

ヒマラヤの小国ブータンは、GNHという言葉の発信地として知られています。GNPではなく、Gross National Happiness・国民の幸福をめざすブータンの政策や現状の調査報告会です。

●日時：10月19日（火）19時～21時

●場所：ハートピア京都第5会議室（京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地 京都市営地下鉄烏丸線

「丸太町」駅、バス「烏丸丸太町」

●講師：富野暉一郎氏（龍谷大学法学部教授）／今本秀爾氏（国際政治ジャーナリスト）

●定員：50人（要事前申込み・先着順）

●参加費（資料代）：300円

●主催・申込み：特定非営利活動法人環境市民（〒604-0932 京都市中京区寺町二条下る呉波ビル3階 tel. 075-211-3521 fax. 075-211-3531 e-mail : ecocity@kankyoshimin.org

URL <http://www.kankyoshimin.org/>

●申込み方法：氏名（ふりがな）、連絡先を添えて、10月15日までに上記まで。

編集後記

暑さ寒さも彼岸まで。でも、今年は春のお彼岸を過ぎても寒さはなかなかゆるみませんでした。夏の暑さはどうでしょう？ 少し過ごしやすくなってきたでしょうか。夏の疲れがしやすい時期、みなさんご自愛ください。（東川）